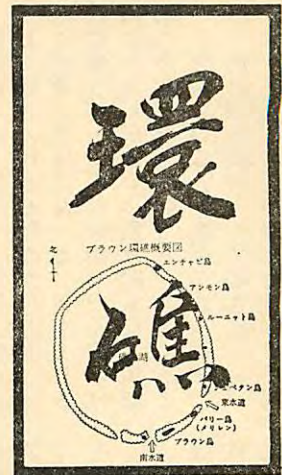


タラワ環礁ベシオ島のマニアバ (5頁)



マーシャル方面遺族会  
(旧クエゼリン方面戦歿者遺族会)  
郵便番号 154  
世田谷区野沢 3-11-3  
電話 03-424-4300  
振替口座東京 0-93487 番  
編集兼発行人 佐藤宗丕

### マーシャル諸島 ギルバート諸島 慰霊巡拝を 希望される方へ

会長 浮田信家

本会がかねてから厚生省に対して、マーシャル諸島、ギルバート諸島及びその附近海域で散華された戦歿者の慰霊碑を建立されるよう要請してまいりました。

厚生省は目下現地政府との交渉を進めており、近く実現の運びとなりました。

建設地は、私どもの希望したとおりマジュロ島に予定されています。同島には本会と特に親しい間柄の方々が大勢居られ、玉砕の島クエゼリン島、ルオット島、ブラウン島や、ウオッセ島、マロエラップ島にも近く、航空路はギルバート諸島のタラワからナウル、トラック、サイパンに通じております。本会会員の慰霊巡拝には極めて好都合な地点です。

慰霊碑が完成しますと、政府主催による竣工式、追悼式が行われ、戦歿霊場の慰霊巡拝が行われます。

参加者の人選は厚生省から各都道府県に推薦を依頼するのが通例です。

この環礁を発送した後には厚生省から具体的な計画が発表された時はその内容を全会員にお知らせするのは困難ですから希望者だけにお知らせすることといたします。

実施の時機は五十九年一月頃と推測されますが、参加を希望される方は「戦歿者名、戦歿場所、参加希望者名、年齢、性別、住所」をはがきか手紙で本部にお知らせ下さい。

### 目次

マーシャル諸島ギルバート諸島 慰霊巡拝を希望する方へ	1
..... 会長 浮田 信家	1
昭和五十八年慰霊祭総会直会	2
靖国神社のみたままつり	3
ギルバート諸島の慰霊碑完成	4
..... 田中 雄吉	4
ギルバート墓参に参加して	
..... 日出山光子	9
..... 楠 和子	9
..... 小倉 洋子	9
..... 奥山 キノ	10
..... 渋谷 賢一	10
..... 近藤キクエ	10
..... 及川 よね	10
..... 中野フヂエ	11
お便りの中から	11
戦地からの便り..... 日出山光子	12
マーシャル諸島情報	14
寄附者芳名	14
環礁談話室 開設のおしらせ	16
事務局だより	16

# 昭和五十八年

## 慰霊祭 総会 直会

前夜の子報で大丈夫とは思いながらもやはり気掛りで暗いうちに雨戸を開け、満天の星を見てほっとする。

午前八時、靖国の社頭にはなつかしい顔が次々とお見えになる。昨年は浮田会長がケガのため欠席して会員にご心配をおかけしたが、今年は無気なお姿を見せて皆さんのご挨拶に応えておられる。

午前十時、会員来賓一五八名昇殿参拝。玉串奉奠は会長の他に、来賓、親妻、子のそれぞれの代表が奉仕した。

何時もながら御本殿のひと時は、莊厳肅然のうち英霊との対話のできる尊い時間であり、心洗われる思いがする。

総会は例年参集所で開催してきたが今年是他に三団体の参拝者があるため靖国会館一階で開催した。

司会は高橋 功幹事。先ず会長から「昨年はフトしたケガで入院、手術などして皆さんにご心配をかけたが、幸にこの通り元気になった。毎年2月6日に皆さんと一緒に詣りできるのは何よりありがたい。私は間もなく満83歳になるのであとのことを考えてほしい」と思っている」と挨拶があった。

大高幹事を議長として議事に入る。57年度経過報告を佐藤副会長から、同

決算(別表)を橋口副会長から、監査結果を秋山監事から夫々報告され異議なく承認した。

58年度会務計画を佐藤副会長から次のとおり報告された。

- 1 〃環礁〃は例年通り二回発行する
- 2 政府に対し、マーシャル諸島、ギルバート諸島、ナウル、オーシャン及びその隣接海域での戦没者慰霊施設を設置するよう要請する。(趣旨は〃環礁〃38号3頁4段参照)
- 3 本会は、創立の際企画した活動の大部分を実施した。20周年の節目に際し、会の今後のあり方について、会務の簡素化、活動の縮少、会の解散までを含む諸問題を役員会で検討し、成案を得次第〃環礁〃に発表したい。ご意見のある方は何なりとお聞かせ頂きたい。

つづいて58年度予算案(別表)を橋口副会長から説明あり、会務計画、予算案を一括審議して原案どおり可決。

役員改選は、佐藤副会長から、会長と監事の重任を希望する旨の発言があつてその通り決定し、副会長以下については浮田会長から次の通り指名。副会長3名は重任、常任幹事は、井上賀雄、田中雄吉、昼間葉平の3氏、幹

事は、荒木常子、大高吉郎、岡野正文

木下満子、木村久子、国松ふみ江、小泉文江、佐竹エス、柴崎 晃、高橋功高林芳夫、山口良二の12氏。

以上で総会の議事を終り、昨年ギルバート部会の代表世話人として建碑に尽力した田中雄吉幹事からその報告があり、大事業が短時間の間に完成したことを、一同喜び合った。

### 直 会

風邪ひき等のため、前日、当日の取消し者12名にもなつて旅行委員の荒木岡野両幹事は対策に大忙し。1時30分69名は乗心地上々の大型バス2台に分乗し一路南房州へ。

房総半島は、伊豆半島、三浦半島に較べて道路が悪いと言われたのは昔のこと、今は追いつき、追い越した感じ。本会の3回目の直会で47年に来た時とは格段の変わりようである。

白浜海岸南国ホテル着は5時20分。一浴して直会となる。あびす様と弁天様による乾杯は面白い趣向であった。台湾から来た2人の娘さんの確かな日本語と歌に感心する。

カラオケに、お国自慢の歌に踊りに何時もながら楽しい直会であった。会食のあと、別室で昨年11月のギルバートの碑の現地除幕式の模様を、星川武さん撮影のスライドを使って佐藤副会長から説明があった。

翌7日、8時30分出發。野島崎灯台をバックに記念撮影。敵島神社に参拜



第19期決算報告書 (自57. 1. 1 至57.12.31)

マーシャル方面遺族会

第20期一般会計予算

(自58. 1. 1 至58.12.31)

1. 一般会計収支計算書

<収入の部>

科 目	金 額
前期より繰越	1,766,670
会費(過年度分)	218,000
会費(当年度分)	1,169,500
寄附金等	2,564,032
受取利息	203,125
雑収入	47,980
退職金勘定より繰入	600,000
特別会計より繰入	300,000
小 計	5,102,637
合 計	6,869,307

<支出の部>

科 目	金 額
慰 霊 費	268,350
運 営 費	1,795,737
刊 行 費	470,760
印 刷 費	36,400
通 信 費	132,135
事務所借用料	293,688
振替払込料	30,325
事務用品費	20,565
会議 費	92,612
雑 費	60,000
予 備 費	0
退 職 金	1,000,000
ギルバート部会協賛	300,000
特別会計へ繰入	800,000
小 計	5,300,572
次 期 へ 繰 越	1,568,735
合 計	6,869,307

2. 一般会計財産目録 (57.12.31 現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	116,181	前受会費 (58年~63年)	665,000
普通預金	1,584,274	預り金 (宿泊・直会)	749,600
定額貯金	758,000	小 計	1,414,600
振替貯金	524,880	次期へ繰越	1,568,735
合 計	2,983,335	合 計	2,983,335

特別会計収支計算書

収入の部

前期より繰越	2,500,000
一般会計より繰入	800,000

計 3,300,000

支出の部

一般会計へ繰入	300,000
---------	---------

計 300,000

次期へ繰越

3,000,000

退職金勘定収支計算書

収入の部

前期より繰越	600,000
当期収入	0

計 600,000

支出の部

一般会計へ繰入	600,000
---------	---------

計 600,000

次期へ繰越 0

ギルバート副碑建立寄附預り金計算書

収入の部

前期より繰越	268,000
当期収入	2,490,250

計 2,758,250

支出の部

当期支出	2,758,250
------	-----------

計 2,758,250

次期へ繰越 0

<収入の部>

科 目	金 額
前期繰越金	1,568,735
会費(過,当年度分)	1,200,000
寄附金等	1,800,000
受取利息	100,000
雑収入	50,000
小 計	3,150,000
合 計	4,718,735

<支出の部>

科 目	金 額
慰 霊 費	150,000
運 営 費	2,000,000
刊 行 費	500,000
印 刷 費	50,000
通 信 費	150,000
事務所借用料	300,000
振替払込料	50,000
事務用品費	50,000
会議 費	100,000
雑 費	50,000
予 備 費	50,000
退職金勘定繰入	100,000
小 計	3,550,000
次期へ繰越	1,168,735
合 計	4,718,735

- 恒例の靖国神社のみたままつりが次のとおり行われます。
- 7月13日から7月16日の4日間 開門午前5時 閉門午後10時
- 昇殿参拝希望者は4日間とも午前9時から午後8時まで参集所受付に
- 4日間とも午後6時から祭典が行われます。参列希望者は5時40分までに参集所受付に
- 神賑行事 毎日午後1時から8時半。各種の催し物で賑やかです。

靖国神社のみたままつり

し、白亜の灯台を仰ぐ。風が強い。フラワーパークから千倉界隈は今正に花盛り、真冬の関東の一部とは信じられない風景である。

太海(フトミ)のフラワーセンターで椿の盆栽の名品展に出遭ったのは幸せであった。

小湊の誕生寺では聖僧日蓮上人縁りの秘宝を拝観して歴史を偲んだが、風が強くて妙の浦の鯛が見られなかったのは、又来る楽しみを残したものだ。

行川(ナメガワ)アイランドには可憐な夢がある。キューバ生れの紅フラミンゴのダンス、山頂から次々と舞い降りる印度クジャク、アフリカ原産のホロホロ鳥等々。

帰路は大多喜街道から往路と同じ湾岸道路へ。道路状況は至極好調で東京駅に着いたのは5時10分であった。

# ギルバート諸島の慰霊碑完成

## —— 除幕式・慰霊祭の詳細 ——

ギルバート部会世話人代表 田 中 雄 吉

キリバス共和国大統領の正式許可を頂いた慰霊碑建立計画は、関係御遺族の御協力とマーシャル方面遺族会の強力な援護の下に順調に滑り出し、11月に慰霊団を結成（参加御遺族35名）無事現地に於て除幕式及び慰霊祭を挙行することが出来ました。ナウル航空のキリバス乗り入れが発直前に週三便から二便に減便された為、当初計画の25日慰霊祭、26日タラワ発ナウル行が不能となり、やむなく二日間日程を繰り上げました。

十一月二十一日（日）晴

午前11時九段会館参集。靖国神社で奉告祭、参拝のあと会館に戻り昼食後結団式を行う。浮田会長の挨拶に続き参加者全員が自己紹介をし、佐藤副会長を団長（会長代理）に、副団長に柴崎幹事と先発した田中幹事の二名を選任し、経過報告並に旅程変更について説明があり、午後4時リムジンバスで成田国際空港に向い日本航空九四一便で8時55分出発しました。

十一月二十二日（月）晴

午前1時15分グアム着。同時刻発のナウル航空七七一便に乗換同2時5分グアム発。途中サイパンに立寄りナウ

ル空港着は現地時間午前9時。

予定では休む暇もなくタラワに向けたがトラブル発生の為遅れること約3時間半。12時30分ナウル発、目的地キリバス共和国ボンリキ国際空港着午後1時35分。

同機には偶然先般日本に来ておられた初代駐日大使（外務次官）のアタランライ、バイテケさんが搭乗されて居られました。

先発隊二名及び国際協力事業団より派遣されて居るタラワ在住の新藤様夫人の出迎えをうけ、早速宿舎オンタイホテルに行き短時間の休息、昼食のあと一同は玉砕の島ベシオの見えるバイリキ地区の港に向いました。

正副団長は西田添乗員と共に外務省のI・Cバツテン様を表敬訪問。特別の取計いを以て短時間ではありましたがイレミヤ・タバイ大統領閣下に御挨拶が出来感謝した次第です。夕食後先発隊と正副団長は明日の式典につき夜遅くまで詳細な打合せを行った。

十一月二十三日（火）晴

午前7時15分、田中、柴崎、桜井の三名は西田氏と共に式場の準備手配の

為先発。バイリキ空港発午前8時のフェリーでベシオ町役場にて係官シニヤン氏と除幕式、慰霊祭及び引続いてのレセプションの打合せ準備に入る。

すでにメモリアルパークはベシオ町評議会の指示の下に清掃され諸準備がはじまっている。レセプション会場である『マニアバ』は大勢の手で椰子の葉等で飾りつけが行われていた。

慰霊団一行を島内戦跡巡りに案内する貸切マイクロバス二台の手配等を済ませ田中及び西田氏はシニヤン氏と共に、慰霊碑と一緒に送附した病院用医療機器（高圧蒸気滅菌器）をベシオ町の病院に引渡しのため出掛ける。

同滅菌器二台の中一台はベケニビエウ地区にある病院用として後日届けて頂くよう依頼、梱包中に入っていた白

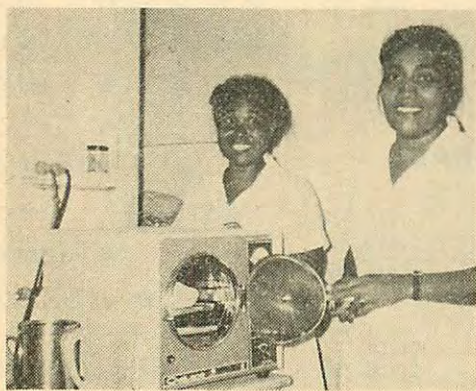
布六反（静岡県の松下龍二様寄贈のもの）と滅菌器一台の贈呈式を行った。

メモリアルパークの前の食堂で全員の日食準備のあと午前10時40分ベシオ港の本隊を出迎え、マイクロバス二台で戦跡巡り約2時間。昼食後各々手わけして式場とレセプション会場の準備に追われる。

午後3時全員ベシオ町役場の一室を借用して式典参列に備え着換えを済ませる。招待の来賓が次々と参集され定刻午後3時30分式典に入る。

除幕式はキリバス国側より男性一名と、慰霊団から最年少の女性豊橋市の鈴木麗子さんの手により除幕がなされ、続いて佐藤団長が日本より持参の靖国神社拝領の「靖国の水」を以てお清めをし、マーシャル方面遺族会浮田会長の代理として「追悼の辞」を述べ、続いて正副団長と遺族代表として最高齢者の日出山、坂本、及川の三名による献花。次にキリバス共和国側からバイテケ様、タニエラ様及びバツテン様夫人の順で献花のあと、貿易産業大臣ポアンナレケ様から英語とキリバス語で挨拶があった。（西田添乗員通訳）次に全員で献花礼拝して予定どおり午後4時式典を終わりました。直ちにレセプション会場に移動し、パーティ

ーが始まり参加者全員で持参した日本酒、用意された料理、ビールその他にて急に和やかな雰囲気となり会場に飾られた松下さん持参の日本人形二体も



寄贈した蒸気滅菌器

レセプションを一層盛り上げた。  
 又ベシオ町評議会側にて用意下された民族舞踊(メンバー総数約一〇〇人)が益々賑やかさに花をそえ、宴たけなわの中ベシオ島最長老百歳を超える元気な古老入場。一同疲れも忘れ友好の場は時間を忘れ去る程にいつまでも続いた。レセプション会場のマニアバ(写真は1頁上段)はこの国の人達がなにかにつけて集まる場所であり日本の各部落毎にある公民館、公会堂という所です。このような場所の提供により友好を温めることが出来た事についてベシオ町評議会に対し、なんと御礼



図書贈呈式



贈呈した図書



を申し上げて良いか言葉に表わす事の出来ない思い出となりました。

マニアバの周囲は金網の塀で囲んであり入口には警察官が立ち一般の人達は塀の外に鈴鳴りで見送り居りましたがダンスが最高調に達した時入口が解放されドツとばかりに会場に入って来ました。

午後5時のフェリーで帰られる数組の来賓がりましたが大半の来賓は最後まで会場に残り漸く午後6時終了しました。猶現在キリバスに国際協力事業団の派遣技術員が四名おられるほか、冷凍庫建設の為宝建設(株)の作業員の方々、入港中の日本漁船東丸の方々の全員が式典に参加下され尚且御供物まで頂きました。特にレセプション会場では通訳の役を引受けて下され、本当に良い交流が出来ました。終了後二台のマイクロボスに分乗した団員は宝建設の宿舎にて日本茶の接待を受ける組、又出席の来賓夫妻に会員制のベシオクラブになかば強制的に連れていかれ帰りのフェリー午後7時に乗り遅れるのではないかと思ふ程の歓迎でした。

無事予定のフェリーに乗船午後8時過ぎ宿舎に戻りその夜は交通公社が特別に用意した赤飯、そうめん、タコワシの日本式夕食は実にすばらしく参加団員一同之れ亦感激でした。

振りかえれば昨年マニシヤル方面遺族会主催第二回の現地慰霊団がタラワに行き、その際埋葬した遺骨の処理か

らははじまり一年四ヶ月にして念願の慰霊碑建立が実現した訳です。

然もその際に一切を指示下された外務次官であるアタシラオイ・バイテケさんが初代の駐日大使となられ今回は一行と同じ飛行機にてタラワに帰られ、又帰途空港までわざわざ御見送り賜り誠に有難いことでした。尚大勢の在任日本人の方々の御協力にも只々頭の下がる思いが致して居ります。  
 十一月二十四日(水)晴

今回の慰霊団が到着する前々日まで二週間以上続けての悪天候が、前日(本隊出発の日)朝から快晴となり、一番心配した式典当日は勿論帰国する日迄晴天に恵まれなにか英霊の御加護と思われてなりません。

午前中一行は再びベシオ島に渡りお別れを済ませ正午過ぎホテルに戻り帰国の準備をする。正副団長と西田氏はバイリキ地区の政府関係者の挨拶廻りをし、午前9時より国立図書館で『日本紹介の洋書』二十四冊の贈呈式を行いました。現地新聞社からもカメラマンが来て写真を撮って居りました。

今回こちらに来て感じたことは慰霊碑をはじめとして寄贈品に対するキリバス国側の取組み方は荷物は着いていても我々が来てから解梱をして寄贈を受けるという方式でした誠に恐縮した次第でした。

尚今回このほかに、日除け(パーゴラ)鉄製組立式長さ八米幅四米一基

と長椅子(ベンチ)四脚と屑籠十個を  
寄贈しました。

さて空港には前述のバイテケ様のほか国際協力事業団の新藤様そして東丸関係者宝建設(株)の御見送りを頂き誠に申訳なく恐縮致しました。短い滞在をすべてスケジュール通り済ませせしかも晴天に恵まれ大任を果した思いでタラワをあとにしました。

同夜はナウル共和国メンネンホテル宿泊、夕食は現地日本レストランサクラにて日本酒日本食を味わいました。

十一月二十五日(木)晴

朝食後空港に向う。ナウル在任のマージャー方面遺族会篤志会員ジョン・ウイリス様宅を正副団長以下関係者が訪問した所、大変に喜ばれ御夫妻で空港ロビーに見送りに来られ、今後遺族会の皆さんがナウルに来た時は訪ねて下されば出来る限りの事をする最近不在が多いが娘が居るので代って御世話するぐとお嬢様(ルビーさん)を紹介されました。ナウル空港出発途中トラック島に寄り予定通り最終地グアムに到着、フジタ・タモンビーチホテルに落ちつき同夜はホテルのレストランでポリネシヤダンスのショウを見物しながらの夕食でした。

夜半明方3時20分頃同室の佐藤団長と一緒に南十字星を眺め感慨無量。今回の旅行はトラブル続きであったがすべてのトラブルを乗り越え予想以上の形で行事を無事済ませたことを喜び合

ました。  
十一月二十六日(金)晴

朝食後貸切バスでグアム島の戦蹟巡拝。昼食後帰国準備の為買物を済ませ、夕食はホテル中庭のニッパハウスを借り切り、直会をかねてバイキング料理と共に日本酒、オニギリ、オデックも揃い賑やかにカラオケも入り、参加者全員の感想発表をして歌に踊りと夜の更けるのも忘れませんでした。同夜半2時にホテル入口に集合、佐藤団長の説明によって南十字星を見ました。

十一月二十七日(土)晴

一週間という短い旅行でしたが当初の計画より二日間繰り上った為往路のマジュロでの二泊が復路グアム島にて二泊する形となりました。  
日本を前にしてグアム島にいるならすぐに帰国すればとの御意見があったと聞きましたが、丁度結婚シーズンで夏休み期間中と同様成田発のグアム、サイパン線が往復共超満員で座席がとれなかったためです。本日は色々帰国です。一同ゆつくり起床昼食後空港に向い、日本航空九四八便で、予定通り日本時間午後7時15分暑いグアム島、三十度から気温五度その落差二十五度の成田国際空港に着きました。

## 先発隊の行動日誌

田 中 雄 吉

出発直前の円安ドル高の為旅費大幅

値上げ問題と、ボンリキ国際空港の使用制限という事態が発生して、旅程計画が予定通り実行出来なくなり、当初の予定を三日間延長し三十日に帰国する案が検討された。

帰国が月末になるのでは参加不能となる方、又その為に旅費が増額になる等の諸問題を抱えて、役員一同交通公社と種々協議を重ねた。取敢えずナウル航空と再交渉する一方、キリパス共和国宛電報を以て二十六日の飛行許可を御願する。又来日中の駐日大使に特別取扱いをお願いする等手をつくしたがハッキリせず結論として田中、西田兩名を先発させることとなった。

慰霊団のキリパス滞在日数三日間で諸行事が計画通り実行可能かも、現地政府関係者と打合せの必要もあつた。

万一、計画を中止する場合は一刻も早く参加者全員に通知せねばならないので、中止の場合はグアム島より引返さすことにした。猶先発に当り佐藤副会長より現地にてどのようにすべきかの一切を決定する権限を与えられ、誠に大役且つ責任感の重圧を背に、11月15日、夜の九四一便で出発した。

11月16日現地時間午前1時15分グアム島着仮眠のあと、午前9時交通公社グアム支店にて打合せの後、係の佐藤氏同道にてナウル航空グアム支店に於て協議の結果、当初計画のマジュロ経由を変更して24日にタラワ発ナウルに  
戻るならば、予定通り21日出発し27日

帰国の日程で実行可能な結論を得た。

この場合問題となる事は玉碎命日の25日に合せた式典が二日間繰り上げとなる事でした。又マジュロのホテル予約取消しの為の予約金の件、24日のナウルでのホテルの確保と二日間繰り上げとなったタラワのホテル手配がどうか等々、グアム島では如何としても連絡がとれないので先発隊がタラワに行き、交渉する以外に打開策がなく、加えて25・26日二泊のグアム島のホテル手配も折柄のハネムーンシーズンの為確保が相当困難である。

以上のほか21日出発の本隊のグアム乗換えが着時間とナウル航空の出発時間が同時刻の為、荷物の積替えにつき航空会社間で便宜を計って貰う等一応全部解決し、念の為新スケジュール表をファクシミリを以て東京に送った。  
決定に至る迄は出発の際権限は与えられたものの、式典が玉碎命日に出来ない事、又当初計画の日程枠内で実行するには、相当な強行軍となる事を考え、大いに悩んだ。

茲までに至るには日本交通公社の組織網と西田添乗員のねばりとグアム支店の絶大な協力で全く頭の下がる思いがした。決定のすべてを本部に電話連絡し、翌17日深夜空港に向い、午前4時過ぎナウル航空に搭乗、途中ボナベ經由相当な遅れではあったがナウル着、タラワ行に乗替えた所この便はマジュロ経由の外廻り循環便であった。







寄附者芳名

(敬称略) (四三二名)

本欄に掲載の会員各位は、年度会費御完納の上の御寄付であり、本会運営に寄与するところ多く役職員一同いつも感謝申し上げます。一層節約を旨とし本務遂行に事欠かぬよう留意致しますので今後共御協力頂きたく御礼と共に御願ひ申し上げます。(昭和57年11月1日から昭和58年5月31日までに入金の方)

篤志会員その他

北海道	妻 白山 光枝子	八〇〇〇	秋田県	母 熊谷 サタヨ	三〇〇〇	宮城県	妻 平形 いせこ 妻 松木 孝子	一〇〇〇 八〇〇〇	群馬県	兄 園部 重太 母 森 ゆき江	一〇〇〇 二〇〇〇	茨城県	妻 吉津 ミドリ 妻 馬場 嶺雄	三〇〇〇 四〇〇〇	福島県	妻 赤塚 美正 妻 丹野 アサ	一〇〇〇 二〇〇〇	山形県	妻 大場 美津子 妻 渡辺 ミナ	三〇〇〇 二〇〇〇	福島県	妻 石橋 節子 妻 富田 ミツ	五〇〇〇 二〇〇〇	茨城県	妻 若狭 明光 妻 大熊 もと	三〇〇〇 五〇〇〇	栃木県	母 池田 ミイ 母 宮内 はつ	二〇〇〇 一〇〇〇	東京都	妻 黒川 文江 妻 小泉 孝	二〇〇〇 一〇〇〇	千葉県	妻 津久井 艶子 妻 加瀬 よし	五〇〇〇 二〇〇〇	北海道	直会旅行者一同 馬場 直人殿	三〇〇〇 二四〇〇	宮城県	母 劉屋 みさを 妻 菅原 キイ	八〇〇〇 三〇〇〇	茨城県	妻 長女 伊藤 フジ 妹 小山 キミ子	一〇〇〇 一〇〇〇	福島県	妻 赤塚 美正 妻 丹野 アサ	一〇〇〇 二〇〇〇	山形県	妻 大場 美津子 妻 渡辺 ミナ	三〇〇〇 二〇〇〇	福島県	妻 石橋 節子 妻 富田 ミツ	五〇〇〇 二〇〇〇	茨城県	妻 若狭 明光 妻 大熊 もと	三〇〇〇 五〇〇〇	栃木県	母 池田 ミイ 母 宮内 はつ	二〇〇〇 一〇〇〇	東京都	妻 黒川 文江 妻 小泉 孝	二〇〇〇 一〇〇〇	千葉県	妻 津久井 艶子 妻 加瀬 よし	五〇〇〇 二〇〇〇
-----	----------	------	-----	----------	------	-----	---------------------	--------------	-----	--------------------	--------------	-----	---------------------	--------------	-----	--------------------	--------------	-----	---------------------	--------------	-----	--------------------	--------------	-----	--------------------	--------------	-----	--------------------	--------------	-----	-------------------	--------------	-----	---------------------	--------------	-----	-------------------	--------------	-----	---------------------	--------------	-----	------------------------	--------------	-----	--------------------	--------------	-----	---------------------	--------------	-----	--------------------	--------------	-----	--------------------	--------------	-----	--------------------	--------------	-----	-------------------	--------------	-----	---------------------	--------------

真黒になって、第一線任務に部下と共に明朗なる勤務に従事して居る。一緒に来た者で病気になるのは自分一人位だ。何度言うても暑い。飲料水も充分ない。時折りドラムかんでの輸送を爆撃され、男乍ら涙が出る程残念だ。今度先日も知らせたが派遣中の所復帰を命ぜられ、内地出発の際予定地〇〇

〇に(十月一日) 移転勤務したから承知してくれ。以前の所より大分気候も悪くそれに不自由な所で何もない味気ない島だ。勤務が非常に多忙で手紙さえ書くひまがない状態だ。やはり本隊勤務はきびしい。本場に第一線だから気がでない。「何時来るかわからない。」戦争なら喜んで死ぬが、犬死だけは仕度くない。自分は覚悟の上だが若い部下が可愛そうだ。何時頃だったか忘れたが、お産(産)はもう済んだ事と思う。名前は出発の際の通り田舎とも充分連絡して産れたら早く知らせてくれ。男子ならよいが。

昨夜いやな夢を見た友部の母が爆撃された所で目がさめた。変わった事はないか、知らせてくれ。今日は忙しい乍ら一風呂入り二十分ばかり時間が在ったのでペンを取った。電灯設備がない為月照を利用して。今日も友人の告別式一時間ばかりして、又本部当直(当直将校)で一責任だ。又その内ゆっくりに書く事にする。くれぐれも洋子、武達に淋しい思いをさせぬよう。

昭和十八年十月二十八日

光男

光子  
洋子

(注) 昭和18年9月3日に次男昇が産れ、57年7月に母と兄の武と三人でタラワに慰霊に行った。

マーシャル諸島情報

マーシャル・アイランズ・ジャーナル紙より

◇4月26日号より

『2千トンのコブラ売却』

マジュロ発 4月26日

トボラー・コブラ社は2千トンのコブラ(ヤシの実)を来月、日本のフジオイル社に売却すると発表した。支配人のジョン・スマイス氏によると価格はマジュロ港渡しでトン当り2百ドルである。

スマイス支配人の説明によるとこの大量売却の理由はコブラ在庫の縮少と借入金返済である。この売却はグラム銀行よりの百万ドル(約2億円)の借入金の返済に寄与した。売却されたコブラは採油用である。スマイス氏は在庫整理が進展をみたことにより、新コブラからは価格の上昇を期待している。マーシャルのコブラ生産者は現在マジュロではトン当り130ドル、他の島々ではトン当り100ドルの収入を得ている。

トボラー・コブラ社では今後もコブラ価格の安定化に力を入れていくとの事である。

(注) マーシャルの主要産物であるコブラはアメリカへの輸出が減少して売行き不振であったが、この程日本の業社への輸出成約がなったようである。

◇4月29日号より

新聞広告より

☆鮮魚(連日、1ポンド当り)

- ・ツナ(まぐろ).....1ドル
- ・マヒ・マヒ(どんな魚なのでしようか).....1ドル
- ・フライング・フィッシュ(とび魚のことでしょう).....1ドル

(注) P・I・I社(パンフィック・インターナショナル社)の広告です。つまり魚はみんな1ポンド当り1ドルで同じです。100グラム当りでは約50円となります。

☆週末大売出し

- ・とり肉.....ポンド当り79セント (100グラム当り約44円)
- ・カリフォルニア米.....
- 25ポンド当り6ドル95セント (1kg当り約140円)
- ・砂糖 2kg当り1ドル50セント (1kg当り約73円)
- ・13インチ東芝カラーテレビ.....約7万5千円
- ・ナショナルビデオコーダー.....約15万円

(注) 1ドル30円で換算しました

◇5月10日号より

『降雨量』

マジュロ発 5月10日

気象台の発表によると週末の降水量は1・42インチ(36mm)であった。これにより現在の貯水量は240万ガロン(9万4千トン)となった。

(注) マーシャルでは飲料水等の水源は天水であり、マジュロでは空港に降った雨をろ過して空港際の貯水池に貯水している。水は大変貴重であり、数年前は給水制限もしばしばであった。今年はどうやらだいじょうぶなようである。

◇5月17日号より

『女子ソフトボールリーグ』

現在の順位は

- |    |           |       |
|----|-----------|-------|
| 一位 | ラフ・ライダー   | 11勝1敗 |
| 二位 | 9 TO 5    | 10勝2敗 |
| 三位 | AMIエンジェルズ | 7勝5敗  |
| 四位 | リタ・ユース    | 6勝6敗  |
| 五位 | ハニークラブ    | 5勝7敗  |
| 六位 | ポールバスター   | 3勝9敗  |
| 七位 | モスキート     | 0勝12敗 |
- 最終順位決定の為にプレーオフがよいよはじまる。

(注) マジュロでは女子のソフトボールが大変盛んです。職場や地域でチームをつくっている様です。誌上には写真入りで試合結果が報道されます。男子チームについてはまだ不明です。

②海軍兵曹長村上茂殿の妻

愛知県 小山内 小美賀

光陰矢の如しと申しますが、月日の立ちますのは早いもので、三月も目前に昨年は御手紙を頂きまして誠にありがとう御座いました。早速御返事と申していましたが、四年前ふとした事で二階のはしごだんからさかさまに落ち、どうなる事かと医者も心配したそうですが、神仏のおかげか、その時は良くなりました。しかし風邪の時なぞいたみが出て困りましたが、今はようやくよくなりました。何と申しましても今年私のエトです。八十をすぎましたのですものね。いつの間にか年をとりましたかと思儀に思います。忠一が生きていましたら六十二歳です。京城駅で手をふり「母さん銃後の為働いて赤ちゃん(長男忠一殿)もちる時は桜の花の様」これ丈言ったら汽車が汽笛と一緒に見えなくなる迄送り帰りました。

長女も学校を出、自分から進んで挺身隊に行き、富山の方に行き終戦後なくなりました。

国の為戦死した子にやしなわれ

母はホームで八十四を迎え

かんな月富山の空で花とちり

灰になる迄わすれえぬ母

世の中は希望に満ちて百迄も

第二人生楽しく行こう

年をとりますと字のよみにくい所が

ありますでしょうかから許して下さい。ほんの少しでございませが御受取下さい。皆様によりしく申し上げて下さい。

(58・2・28)

①愛知県知多郡南知多町大字山海字海外一四 南知多荘

②陸軍伍長小山内忠一殿(ブラウン島で玉碎)の母

福島市 富田 ミツ

前略御免下さいませ。皆様お元気で御過しでしょうか。大変御無沙汰致し申し訳ございませんでした。

二月の靖国神社参拝又直会旅行等の際は会長様始め役員の皆々様に並々ならぬお世話を戴き有難く厚く御礼を申し上げます。今年には御元氣な会長様のお顔を拝見出来て遺族会はまだまだ御安泰だとほんと致した次第です。どうぞ何時までも私達遺族の年一回の会合の場、頼り所としているこの会を解散などと云うことのないようお護り戴きたく切にお願いを申し上げます。又乏しい財源の中から皆様力を合せて立派な「南瀨之碑」をお建てになるなど遺族会が今まで果たした役割は本当に大変でした。今後は現地墓参がスムーズに行われることを私達は願っております。最後になりましたが直会旅費残金をお送り下され有難く受領致しました。

(58・3・24)

①福島市野田町凱陣三一四  
②陸軍歩兵伍長富田富栄殿(マロエラッブで戦死)の姉

戦地からの便り

茨城県 日出山 光子

発信者 海軍中尉 日出山 光男  
18・11・25 タラワで玉碎

横須賀局気付 ウ六八ウ二三四  
第六七警備隊、高橋隊日出山隊

日出山 光男

手紙有難う。永い事待ちに待ったお前よりの手紙本日受取った。書留小包も同時に。こちらも、無事とは言え、二・三日前から風邪にて熱帯方面にも風邪引きが在るかと思うと……〇〇方面も近日天水が豊富で幸だ。坂本の母と仲田さんからも一緒に。お前の体の工合はどうだ。

男の子を産んでくれ。名前は出発前命じた通り。生れたら早く知らせてくれ。洋子と武にくれぐれも淋しい思いをさせぬよう、友部の母に養命酒と水飴を買って送ってくれ。田舎ではなかなか手に入らぬだろう。酷暑日課と言うて昼休み二時間位ある。兵隊は夜哨戒や種々の作業で疲れたせいか揃って良く眠っている。部下は可愛いもんだ。電灯施設がない為夜は雑誌すら読む事は出来ない。どんな事があっても

子供だけは立派に育ててくれ。当地は全く何もない。ビールは毎日一本はのめる。酒保代月30円位。勉の縁談はどうなった。来年洋子の入学準備をたのむ。この手紙着く頃はお産も済む事だろう早く知らせてくれ。ポツポツ仕事にかかる。今日はこれで、洋子や武にもサヨナラ。

昭和十八年八月二十一日

光男

光子

便の都合で暫く手紙は来ない。元気に過している事と一人寂しく孤島の木蔭で俺も至極元気でいる。今度〇〇派遣中のところ復帰を命ぜられ、今日で三日目だ。表記の所、以前の所より大分暑い比較的雨が少い。戦地へ来てから病氣らしい病氣した事がない。不思議な位だ。今度送れたら次の品物送ってくれ。

禪五本、シツカロール二個、スリッパ一足、クリーム一個、下痢止若干。子供が生れたら早く知らせてくれ。母にも宜しく。

十月三日 第三特別根拠地隊

ウ六六ウ二三三武井隊、日出山隊

日出山 光男

光子へ

其の後光子初め、洋子、武皆揃って元気に淋しい乍ら暮していることと悦んでいる。

内地からの便はめったに入らない。自分も、何時も相変らず健康に恵まれ

同行の方々故お話の中にも慰められたり、励まされたりすることも多く成田でのお別れは、本当に名残り惜しく感じられましたことは、私どもだけでは

なかつたと存じます。本当にお世話様  
でした。  
385 佐久市岩村田  
二二二五―四四

### ◇ 礁 湖 ◇

堺 市 中 野 フヂエ

職退かばと永く願ひてあつひに亡き弟の島タラワに降立つ空を遙かわが来し島の宿の窓に暮れゆく碧の礁湖見てたつ髪乱し女駆けるごと椰子林にスコールきたり一方に撓ふわが窓に向く北タラワ歩みゐる兵の幻まざまざとして日本のかた北西に向く碑の面に礁湖をわたる風の吹きつく勝ちし者ら来り交々に刻みたる横文字の名の砲座に残るヤドカリとなりてもいで来よ小ひ姉が汝に会ひたく砂浜に待つ礁湖の上の天に住まふや弟を声にし呼べり堪へがたくして礁湖に向きわが一人歌ふ「海征かば」空しき歌の胸に迫りついつべ掘りても出でくると言ふききけば汝のみ骨の在処知りたしかたみとしたづさへ去なむ貝殻を真日さす浜に拾ひて歩む遠浅となりし礁湖の砂に群れ島の子供ら貝あさりある日に幾たび礁湖の色の変るらし今見とるはとき色にして去りゆかむ思ひ切なく弟の眠れる島の小道めぐりつ

391 堺市長曾根町一九五〇―一四  
( 関西アララギより転載 )

### お便りの中から

① 住所 ② 戦死者とその続柄

篤志会員 村 岡 達 志

拜啓 向寒の折柄みなさま益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

本日は「環礁」をお送りいただき有り難うございました。いつも乍ら充実した記事で埋められた貴重な紙面を拝見させていただき、編集者のご労苦は並々ならぬものであらうと拝察し、心からの敬意と感謝を捧げる次第でございます。

マーンシャル方面遺族会の動静は「環礁」に逐一報道されており、会長を始めご関係の方々の常に変らぬご熱誠についても、兼ねてより拝承させていただいておりますが、その偉大な業績に深い感銘を受け、敬服いたしておるところでございます。

この上とも皆様が一層お元気で活躍なさいますよう、又併せて貴会の永遠のご発展を切にお祈り申し上げます。

敬 具

追って、甚だ些少で失礼ではございますが、同封の札、通信費等の一部にでも充てていただければ幸と存じます。  
( 57・12・15 )

舞鶴市 村 上 増 枝

寒さもひとしお身に沁む頃となりま

した。  
浮田様始め遺族会役員の皆さまにはお変わりございませんか。ますますご壮健でお過しのほどお祈り申しあげます。

毎度環礁お送りくださいますありがとうございます。うれしく拝見致し居ります。私こと此の春の彼岸に舞鶴の海の見えるところ、市営北吸墓園に念願の墓碑をたてることができました。

本会のえにしに結ばれ、環礁によつて故人の在りし島最後のまよふも慰ばれました。安穩に歳月を過してきたことをはずかしく申しわけなく思い居りました。自活の道へ進むかに見えた娘も良縁あつて嫁ぎ、引つづき好きな道へすすみ、私も初孫を見るのができました。今また墓碑が出来上り今年はうれしい年となりました。碑文に戦記をきざみあとに残すことができましたのも本会のおかげと感謝致して居ります。戦記のつづきにつたなき歌をしるしました。

殉国のみたまとなりし環礁に  
残すいさおし永久に忘れじ

皆様には時節柄御身ご自愛くださいまして新しき年をお迎えくださいませようご多幸をお祈り申しあげます。遺族会のみますますご発展を念じあげます。乱筆お許し下さいませ。かしこ

① 舞鶴市森本町六一六  
( 57・12・16 )

私の父への思い出は三〜四歳の頃、父がたまに帰ってくると、よく、まつわりついて離れず、何処へでもつれて行ってもらった。又あるときは、あまりにも長い間家を空け服装も冬服から夏服に変わってたこともありましたが、帰宅した父に、お父さんではない、と泣いて困らせたとき等もありました。楽しいことばかりが、私の脳裏には、走馬灯の様に、次から次へと、思い出されてきてなりません。

ある日、戦死の知らせを、母から聞きました。それから終戦、来る年、来る年待ち続けました。きつと、そのうちに、帰ってくる。そう信じて、苦しいことはいつも胸中にしまうことになりました。事実はどうに帰らぬ人でしたのに……。

現地の様子を見るに、こんなにもむごい戦争。海中に艦の残骸あり、又海岸沿いには、大砲あり、錆ついた建物など、出発前に読んだ「米海兵隊と恐怖の島タラワ」「慟哭の島タラワ」の戦闘場面と、二重写しとなって、この小さな島での激戦、全員玉碎、40年近くたっても、まだ戦争の傷跡を残して居る。さぞ苦しかったことでしょう。安らかに眠ってほしいと祈らずにはいられません。

この様に、おそろしく、大勢の犠牲者を出す戦争、残された者の長い間の苦しみは、私達で充分で、次の世代の子供達には、絶対経験させたくないと思

います。

最後に此の度の慰霊碑が出来、遺族会幹部の方々、並びに現地の方々の御協力に対して、厚く御礼を申し上げます。

〒309-11 茨城県真壁郡協和町三郷 一二二二の十五

秋田県 奥山キノ

浮田会長始め会の皆様から有難度うとお礼を申し上げます。

何事も三度目と云う諺があるが、その三回目、此の度の南瀛之碑の除幕式になりました。

51年の11月26日、遺骨の入った四つの袋を発見してから、誰もがねがった此の日だと思えます。

遺品もなく空の箱を戴きあきらめさせられていた者が此の遺骨を、どうして放つて置けるでしょうか。細く白い全歯の揃った歯ぐき、丈夫な太い足、いろいろと入って居りました。日本の我が家に帰れなくても、皆んな一所に集ってどんなにか安心された事やら、此の骨の主も成仏出来たと思えます。

私達遺族も40年背負った荷物を、おろした様な気持です。実は一回目も、二回目も風もないのにドアを叩く音がしたり、内側からでないか開かないドアが開いたりして、部屋の二人は驚かされました。今年はその様な現象も起きず淋しい様な気もしましたが、碑の下に集って安心したのだと自己満足し

て居ります。

これからも機会ある毎に参加して、あの碑と語り合いたいものと願って居ります。皆さんほんとうにお世話になりました。ありがとうございます。

(57・12・3)

〒018-33 秋田県北秋田郡鷹巣町 綴子字太田後三十三

新潟県 渋谷 賢一

其の節は大変お世話様になりました。11月21日、北は青森、南は兵庫から集って来た総勢34名は、不安と希望で胸一杯でした。靖国神社参拝及び九段会館での結団式を終えて成田へ向いました。

ナウルでは空港に着いたとたん、予想以上の暑さで本当に全員がウンザリ40℃位あったとのこと。交通公社の戸倉さんの御苦労も大変なもの。一路タラワへ。青い空、広い海、本当に言葉でいい表わされないきれいな景色でした。遂に来たタラワに。ホテルへのバスの中では本当に赤道直下まで来たのかと思いました。ホテルでの食事及び室は当初思っていたより良かったし、不安はなかったけど言葉が通じないのが不安と言えは不安でした。現住民の人な

つっこい目、純粋な心。本当に空と海のように心広く素朴な人達でした。ペシオ島での慰霊碑の除幕式、慰霊祭では心新たに……島民の方々の協力に感謝しつつ合掌。涙もホロリ感激致しま

した。

会長初め、佐藤团长、関係各位本當に御苦労様でございました。有難うございました。

〒954 新潟県見附市細越2-10-11

秋田県 近藤 キクエ

百聞は一見にしかず、と言うこの言葉の重さを、今度程身にしみ重く感じたことはありません。この度除幕式並に慰霊祭に初めて参加させて頂き、本當に実りある旅が出来ましたことは、心から感謝と感激にむせぶばかりです。郷里へ帰って、何かからお話をして家族に私の気持ちを伝えようかと、とにかく戦争のキズあと、そしてあの残骸を自分の目で見たいことを思い浮べ一生の思い出として、胸にひめて、团长様初め皆々様のやさしい心遣いに感謝し、御礼をのべさせて戴きます。唯々頭の下る思いです。

ありがとうございます。

〒010-02 秋田県南秋田郡天王町 上江川47-29

長野県 及川 よね

今回のギルバート諸島戦死者慰霊碑除幕式、並びに慰霊祭参加につきましては、種々お心くばりありがとうございました。お蔭様で真心こもった慰霊祭が出来、遺家族は勿論、地下の英霊もさぞ喜んで居る事と存じます。同じ目的のための、同じ心をもった

## ギルバート墓参に参加して

茨城県 日出山 光子

では行くぞ……。昭和18年3月初旬春とは名のみの横須賀の朝は未だ寒さきびしく、見送りは不要の言葉を残し後を見ず、遠く消えて行った後姿は私の胸に今でも残って居ります。

言葉通り再び私の前には姿を見せませんでした。国の為だ、路頭に迷う事はない、固くそう信じながらも後髪を引かれる思いで出発した事と思えます。戦後幼い三人の子を抱えての生活は言語につくし難いものでした。幾度か死を決した事もございます。生きる事のむずかしさも知りました。横井さん小野田さんの帰国を知るにつけ、万一の希望も持ちました。私も生ある内一度でよい、此の目で此の体で確かめたかったのです。もう半ば諦めかけておりました矢先、この度一年のうち一度ならず再度親子四人全員が参加出来る年の望みが叶えられましたこと何よりも嬉しく存じます。

戦後40年、遠い南海の島で風雨にさらされ家族の訪れもなく如何ばかり淋しく待ちわびておった事でしょう。この度、会の役員や会員皆様の御協力に依り立派な慰霊碑が建てられ、慰霊祭が出来ましてさぞかし御英霊も満足さ

れた事と、心から感謝申し上げます。タラワに上陸して海岸にて貝を手に取り御遺骨かと泣き乍ら抱きしめたい思いがしたのは私一人ではなかったと思います。

島に滞在中満足に食事も取れず、恥ずかしい限りです。同行した皆様に本心に御迷惑をおかけしました。今後は心のよりどころが出来ました。皆様の御仲間入り出来まして本当に有難う存じます。機会がございましたら、そして体に自信が有る限り又お参り致し度う存じました。島の方々にも知合いが出来、先頃税官吏(アンテリアさんの子息)から次男宛に今後の事や時間不足の為、充分のもてなしも出来なかった事等を書いた便が有りました。今後の事もありませんが私等なんの力もございませんが何とか皆様ともお守り致し度いと存じます。お骨折り重ね重ね御礼申し上げます。

○幾千里はなれ小島の浜辺にて

貝を手にして亡き夫かと泣き伏す  
かなしみ一入南十字星

〒309-17 茨城県西茨城郡友部町

鴻巣六五七―一六二

神戸市 楠 和子

この度は遺族会役員の方々の御尽力により慰霊碑の除幕式に参加させていただき、まだ海外旅行をした事のない私が楽しく同行させていただき色々皆様方のお世話になりました事を紙面をお借りして御礼申し上げます。

見るもの聞くもの一つ一つが貴重な体験として永久に思い出の一頁として残ることでしよう。

機内で現地の方の御好意で窓際へ寄せていただき、眼下にトルコブルーの水面に浮ぶタラワ島を見た時、三十九年前に父も見た景色であり当時どんな思いでこの島を見たのかと思った時、一瞬消え去って見えなくなるのを覚えました。

除幕式に際しても丁度土曜日の休日でありながら、政府代表の多数の方々の御臨席を仰ぎ、国をあげての御協力を心から感謝致し本当に頭の下る思いでした。又、団長が靖国神社の御神水を慰霊碑に手向けられた時には、英霊に「日本の靖国神社の水を思う存分おのみ下さい」と云う気持で一ぱいでした。そして遺族の方々も長年待ちわびた英霊の安住の地である慰霊碑を目のあたりに見て、どんなに感激された事だろうと胸のつまる思いでした。

島民の方々も、赤道直下の距離感を感じてしまう程の国境を越えた親密さがあり、現地の方の「みよ東海の空あ

けて」、「白地に赤く日の丸そめて」等の歌を耳にした時、激戦の前には、島民に親しまれ、あの美しい色の空と海に囲まれ新鮮な果物や魚を食べた事もあったのかと思ひ、私共二、三の娘達はそれぞれのおもいで、三十九年前の父親の面影を浮べながら慰霊碑に合掌したのでした。

本当にこの度は天候にも恵まれ、皆様の御好意に支えられて過ごした一週間でした。

先に弟が、六年前に写して来ました写真を見て、この度の建物や道路の急速な進歩の変化にびっくり致しました。

この度現地に設立された慰霊碑に致しまして今後、永久に維持するにあたって、会員の皆様も又認識を新たにしなければならぬのではないかと心に念じました。

(58・1・16)

①神戸市長田区駒ヶ林町一丁目九―五

茨城県 小倉 洋子

タラワクそれは私にとって忘れることの出来ない、又あまりにも遠い、遙かなところでした。父を偲んでひとり思いをつのる時、ただ心のみ走りするけれど、現地の土を踏む、などとは、到底夢にも考えて居りませんでした。でもとうとう来ました。私自身を目で、体で、確かめるときが、この感激は、ひとしおです。

くバイリキと結ぶ橋が必要ではないか  
 と思い、シニアン氏に質問した折、橋  
 を架けるべく途中まで工事を進めたが  
 との案もある由、マジユロ空港と同様  
 の空港建設により道路も併設され大い  
 に発展するものと思われる。然し経済  
 的な面が壁となると考えられる。

11月21日(日)晴 先発隊が来てか  
 らはじめての晴天で我々の祈りが通じ  
 たかと思われる。本隊は今日日本を出  
 発する筈本当によかったと思う。午前  
 中に注文のレセプション用料理の詳細  
 打合せを終る。残念ながら先夜ホテル  
 で見た結婚披露宴席上の豚の丸焼きは  
 間に合わぬとの事残念ながらあきらめ  
 る。(参考までに値段は一頭四〇オー  
 ストラリヤドル)

11月22日(月)晴 本隊到着の日で  
 ある。空港に行く。二時間程して頼ん  
 でおいたマイクロバスが来てホテルの  
 車はそれから三十分位して到着する。  
 飛行機の遅れには馴れたもので我々日  
 本人はなかなかなじめない。空港に新  
 藤様の奥様がトラックを持って来て下  
 された。滑走路をターンして走る飛行  
 機と併行しながら手を振ると後部座席  
 の窓でハンカチを振って答えるのがわ  
 かり本隊の無事到着を確認した。

一番はじめに駐日大使のバイテケさ  
 んが降りて来たので早速御礼を申し上げ  
 る。ナウル空港で優先搭乗に蔭で交渉  
 下されたとの事をあとで知った。荷物

未着の為十分な着替もない我々は現地  
 人同様の姿で本隊一行もさぞ驚いた事  
 と思う。本隊と一緒に今日は荷物が着  
 くと思っていたがやはりない。後日談  
 であるが結局二人の荷物は一行が帰国  
 する日の便で着いた。

先発隊としての苦労はあったが、予  
 定通りの日程ですべてを無事終ること  
 が出来た事に満足を感じる。

猶第二回の船便で発送の寄贈品パー  
 ゴラほかは到着していたが手続きが遅  
 れて町評議会がまだ受領していなかつ  
 たので事業団の新藤様にあとをお願い  
 した。さてその後のキリバス共和国は  
 国会が解散となり本年三月に選挙が行  
 われて新しい議員が選ばれ大統領選も  
 続いている由、先般再度キリバスに行  
 かれた宝建設の元請会社D&Aエンジ  
 ニアリングの鈴木様にもこの件を特に  
 お願いしたがまだ保税倉庫にあり、町  
 の方に渡っていないとの事でした。

尚宝建設の作業員の方達の奉仕によ  
 り、慰霊碑の設置方法の手直しをして  
 頂いた事を報告申し上げます。

寄贈品のパーゴラの組立は冷蔵庫関  
 係の施工会社が決定したとき作業を  
 お願いしてはとのアドバイスが新藤様  
 よりあったので決定次第鈴木様を通じ  
 てお願いする予定です。

収支決算は、本会よりの助成及び篤  
 志会員、戦友、会員の皆様の御支援によ  
 り次表のとおり完結いたしました。皆  
 様の御芳志に心から御礼申し上げます。

### ギルバート諸島慰霊碑収支決算報告書

#### <収入の部>

〆環礁、第39号まで掲載の御寄進合計	2,773,250円
マーシャル方面遺族会 本会よりの助成金	250,000円
マーシャル方面遺族会 現地慰霊祭費用として	150,000円
ギルバート部会世話人より拠出金の残額寄附	119,990円
収入合計	3,293,240円

#### <支出の部>

慰霊碑製作費	第一石材株式会社外払	770,249円
寄贈品医療器械 高压蒸気滅菌器2台	サクラ精機株式会社払	250,000円
慰霊碑と寄贈品の梱包及び輸送費2回分	明正交易起業株式会社外払	848,659円
7月25日靖国神社に於ける清祓式費用		30,525円
寄贈品 パーゴラ 長椅子 屑籠	(株)中村体育器具工場払	663,000円
現地慰霊団持参お土産	松坂屋デパート外払	38,800円
慰霊団出発に際し 靖国神社へ玉串料		10,000円
現地レセプション費用他		89,007円
支出合計		2,700,240円

※ 差引き残金593,000円は今後の慰霊碑の維持費として本会に納入しました。尚上記のほか本会より現  
 地国立図書館に寄贈した洋書24冊代金の直接支出が79,000円あります。

しかもマジユロに於てトラブル発生約4時間待機の上改めてナウルより救援の飛行機に乗替えてボンリキ空港に夕方無事着陸した。

トラブルは続くものでタラワに着いたものの私達の荷物がない。ナウルで積み残したのか、マジユロに乗せかえた際忘れられたのか本当に困った。オンシタイホテルに着き、遅い夕食をとりベッドに入る。

考えてみれば十五日夜出発以来五時間程眠っただけである。さて荷物がないと着替も持参した御土産その他もなく、西田氏の場合は式典用の組立式支柱ほか諸工具類、招待状用紙封筒等の一切とカメラ迄荷物の中に入れた為本当に困った。

11月18日(木)暴風雨。ホテルの部屋は明日にならないと確認出来ないとの返事なので早速バイリキ地区に行く。レンタカー一台借り、先づ外務省にI・Cバットンさんを訪問したが大統領執務室の方で仕事中の由である。暫く出入国管理事務所の係官と本隊入国の際の書類の件を打合せた後、大統領官邸に行き、バットンさんに来訪を伝え一応十時のフェリーでベシオ島に行き度いと受付で話をしていた所、二階から下りて来た英国人が、私がバットンですと笑顔で迎えて事務室に案内された。

(注) バットンさんは浮田会長の手紙に御返事を下さった方で独立後のキリバス

共和国で大統領特別補佐官をされていらっしゃる英国紳士です。

早速先発隊として来た旨を報告した所、トントンと話が進み、23日の式典をどのようにやるか等詳細な打合せを済ませる事が出来た。

十二時のフェリーでベシオ島に渡る。昼食後町役場でバットンさんから話のあった係のシニヤン氏と面談、早速雨の中をメモリアルパークに出掛ける。

かねて図面を渡して依頼した慰霊碑の基礎コンクリート工事は方向の修正(北西に向けて)もすべて完成されて居り碑の座石三個を作業員が設置している所であった。

私がここで驚いたのは昨年埋葬した場所ではなく道路寄りに海岸線より下っていたのでなぜ設置場所を変えたかをシニヤン氏に質問した。返事は、埋葬した場所は政府が個人から借り上げている土地であり移した場所は完全な町有地(イコール国有地)で、個人の借り上げ地でもトラブルはないとは思いうが万一の場合を考慮して永久に問題発生のない場所に移動したものである。又遺骨は掘り出して改めて埋葬の上、図面通り基礎も作成した次第との説明があった。

高海岸までの空地には今後建造物は絶対に作らず借り上げ地を含み全部を聖地として囲み、みだりに人の出入りはさせないよう管理をベシオ町評議会

がする由、依って私の判断で本件を承諾した。

役場に戻り慰霊碑の設置につき協議をし、20日(土)と決定、先発隊二名がこれに立合うことにした。尚第二回船積みの寄贈品パーゴラほかはベシオ町役場では不明との事であった。

碑と同着の寄贈品医療器械は着荷しているがまだ開梱していない。これも皆さんが病院に引渡し贈呈すべきとの事で式典当日に病院に一緒にお願いたいという事で打合せを終わった。

タラワの最近の天候はもう二週間以上連続して雨が降っている由、なんとか式典の当日だけでも良い天気にしたと思う。

11月19日(金)朝から雨。ホテルでマネージャーと日程変更の件で打合せ、部屋の確保OKの回答を貰い一安心。招待状の宛名タイプが出来たのでバットンさんの所に行き式典の招待客にベシオ島の最長老を加える件で相談を済ませた。

現在タラワには国際協力事業団の派遣技術員四名と冷凍庫建設の為来て居る日本人の方十名、又現在入港中の漁船あづま丸関係者が居たので、式典に参列願いたいと招待状を届けた。事業団の皆様は、本隊到着の際は出来る限りの協力を約束して下さった。特に新藤様は一行が帰国の際は御見送り頂き、我々の次の御願いを快く聞き届けて下さった。

1 建立した慰霊碑の今後について  
2 今回の慰霊祭の記事が掲載された

3 現地新聞の送附  
寄贈品のパーゴラほかの設置につき出来れば写真を撮り送附願いたい等。

11月20日(土)朝から強い風で今日も雨。バイリキで雨具を買う。ベシオ島に渡り慰霊碑の建立に立会う。連日の雨で地盤がゆるんで居り作業は困難をきわめた。雨の中を役場のシニヤン氏以下全員で休日にもかかわらず作業の指揮をして呉れた。作業の後、作業員の皆さんと昼食をし、御苦労をねぎらった。シニヤン氏の案内でレセプション会場のマニアバを見る。一切の準備は町評議会の方でやって頂けるとの事感謝で一杯でした。

ホテルに戻りレセプションのパーティー用食物の注文、これで式典の全部の手配を完了した。

I・Cバットンさんの話によればキリバスでは現在政府の各々の職場の仕事者を老若を問わず、出来る人、能力のある人にどんどんやらせ仕事を覚えさせ独立後まだ日の浅いキリバス共和国の行政組織を固める為の研修目的で若年者でも登用して優秀な人材を養成しつつあるとの事でした。ベシオ町役場のシニヤン氏はまだ新婚早々の大学卒の立派な青年です。なる程と思った。ベシオ島は経済の中心でありながら船で渡らなければならない。一日も早